

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(令和2年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立青い鳥老人ホーム	所管課	福祉保健部 健康長寿推進課
所在地	笛吹市春日居町小松855-192	設置年月日	昭和48年5月1日
管理方式	社会福祉法人山梨ライトハウス		
設置根拠 (法律、条例等)	青い鳥老人ホーム設置及び管理条例		
設置目的	居宅において養護をうけることが困難な高齢者のうち主として視覚障害者の福祉に係る業務を総合的かつ有機的に行うため青い鳥老人ホームを設置する。		
主な施設内容 (定員等)	○定員50名 ○敷地面積:4,248㎡ ○建築延面積:2,100㎡ ○建物の構造:鉄筋コンクリート造 一部2階建て ○施設の内容 居室(55室:各面積10.75㎡、計:591.25㎡)、地域集会室・霊安室(127.50㎡)、食堂(94.5㎡)、厨房(53.4㎡)、事務所(52.5㎡)、静養室(18.8㎡)、医務室(12.4㎡)、1・2階寮母室(24.99㎡)、宿直室(9.72㎡)、面会室(16.5㎡)、男・女浴室(38.92㎡)、特別浴室(10.91㎡)、1・2階洗濯室(26.79㎡)、理容室(9.1㎡)、談話室(62.56㎡)、その他(廊下等)(950.5㎡)、車庫(63.3㎡)、駐輪場(10.5㎡)、ごみ置き場(3.6㎡)		
主な業務内容	(1)施設の維持保全業務 ・施設及び設備器具の維持保全に関する業務を行う。 (2)養護老人ホームに関する業務 ・老人福祉法第20条の4の養護老人ホームに関する業務を行う。 (3)特定施設入居者生活介護業務 ・介護保険法第8条第11項の特定施設入居者生活介護を行う事業及び同法第8条の2第11項の介護予防特定施設入居者生活介護を行う事業に関する業務を行う。		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	県内養護老人ホーム10か所のうち峡東地区 (1)養護老人ホーム光珠荘:定員50人(笛吹市) (2)養護老人ホーム晴風園:定員75人(山梨市)
---------------------	--

3 利用状況

単位:人、%

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)
利用者数	施設入所利用者	526	535	489	540
	利用者数合計	526	535	489	540
	目標値	600	600	600	600
	目標値設定の考え方及びその理由	定員50名×12ヶ月			
	対平成30年度比		101.7%	93.0%	102.7%
利用率	87.7%	89.2%	81.5%	90.0%	

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

		令和元年度 (実績値)	令和2年度 (計画値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (計画値)
収入	施設利用料		1,920,000	1,846,895	4,146,000
	指定管理者委託料	149,263,518	127,941,000	128,017,238	118,474,000
	その他	741,467	20,224,953	19,122,139	46,658,000
	収入合計(A)	150,004,985	150,085,953	148,986,272	169,278,000
支出	人件費	115,154,229	112,907,000	112,212,524	119,611,000
	県への納付金				
	管理運営費	43,128,375	42,510,000	39,870,208	45,045,000
	うち外部委託費(B)	3,084,035	3,213,000	3,335,322	3,386,000
	支出合計(C)	158,282,604	155,417,000	152,082,732	164,656,000
収支差額(A-C)		△ 8,277,619	△ 5,331,047	△ 3,096,460	4,622,000
外部委託比率(B÷C)		1.9%	2.1%	2.2%	2.1%
利用者一人当たりの経費		278,997.2	213,235.0	261,793.9	197,456.7

5 利用者満足度(アンケート様式は別添のとおり)

実施方法等	<ul style="list-style-type: none"> ●設備・入浴・健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年2月12日～令和3年3月15日 ・実施方法:相談員, 支援員が利用者の居室で面接調査を行う。 ●食事 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目 令和2年7月7日～7月27日 回答者36名 ・第2回目 令和3年2月4日～2月28日 回答者34名 ・実施方法:栄養士が利用者の居室にて行う。
-------	---

単位:%

調査項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
①施設の設備について	91.2%	8.8%		
②行事等	82.4%	17.7%		
③食事	85.3%	5.9%	8.8%	
④入浴	91.2%	8.8%		
⑤健康管理	94.1%	5.9%		
⑥利用者のケア	76.5%	23.5%		
⑦金銭管理	97.1%	3.0%		
⑧その他	91.2%	8.8%		
施設全般の満足度	97.1%	3.0%		

利用者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ①脱衣所で衣類の着脱をせかされることがある。 ②通院した事を他の看護師にも伝えて欲しい。 ③乱暴な言葉を使う職員がいる。 ④外泊したいがコロナ禍のためできない。家族に会えなくて寂しい。 ⑤同じ物ばかり出るから、たまには違う物を食べたい。
利用者の意見への対応	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者の立場に立って支援するように努めます。 ②看護師同士でしっかり情報伝達ができるよう努めます。 ③職員には常に言葉遣いに気を付けるように指導していますが、今後も注意していきます。 ④新型コロナウイルスのワクチン接種を行った後で検討していきたい。 ⑤献立や調理を工夫して、よりバラエティに富んだ美味しい食事の提供に努めます。

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	<p>法令・事業計画等に基づき適正に業務を執行した。</p> <p>施設の経年に伴い、修繕の必要な箇所が増加しており、状況に応じて順次対応していく必要がある。</p>	<p>事業計画に沿った業務が実施されている。利用者が安全・安心な生活を送ることができるよう、今後も日常的な点検を適切に実施し、施設の維持管理に努められたい。</p>
運營業務	<p>利用者への個別支援・日常生活支援については、個別に作成したケアサポートプランに基づき適正に実施している。また各種の行事・クラブ活動については、地域交流行事やボランティアの受入れが中止となったことから、内容の見直しを行い、職員主体による施設内行事の充実を努め、多くの利用者が参加した。厳しい状況の中ではあるが利用者の心身の維持向上が図られるよう今後とも努めていきたい。</p>	<p>事業報告書及び現地確認の結果、各種行事については、状況の変化に臨機応変に対応し、計画表を見直しながら積極的に実施されている。</p> <p>今後も利用者のニーズに寄り添いつつ、創意工夫ある活動に期待したい。</p> <p>また今般の状況も踏まえ、今後も感染症対策については十全な対策を講じて事業を実施すること。</p>
利用状況	<p>利用定員50人に対して、81.4%の利用率で前年度89.2%から7.8ポイント下がった。年度当初42名入所しており、その後6名が死亡により退所した。新規入所者が5名あったが利用率が下がる要因となった。</p> <p>措置権者である市町村や各関係機関に対し、空室があり受け入れられることを積極的に訴えているが利用率向上までに至っていない。そのため契約入所の具体的な検討を行い利用促進に努めたい。</p>	<p>入所者の高齢化が進む一方、措置による新規入所者の獲得が困難な状況で、利用率の向上に向けて市町村担当部署や視覚障害者関係団体との情報交換及び周知活動に力を入れている。</p> <p>定員の20%までは契約入所ができるため、今後は契約入所の利用促進を進めてほしい。</p>
収支状況	<p>収入は利用者の減少から昨年度より全体で212万円ほど減少したが、一般型特定施設の開始により利用者一人当たりの収入はひと月当たり2万円程度増加した。</p> <p>支出では、人件費をおよそ300万円、管理運営費を400万円それぞれ減少させることなどにより、収支差額を約500万円圧縮した。</p>	<p>支出については、着実な経費の節減に努めつつ適正な業務が執行されている。</p> <p>今後ともサービスが低下することのないよう注意していくとともに、安定的かつ計画的な運営に努められたい。</p>
自主事業	<p>ショートステイ事業については、利用促進に努めたが、コロナ禍のため1名利用したのみであった。今後の対策として契約入所の利用促進に努めたい。</p>	<p>ショートステイ事業については利用実績に関らず、緊急的な保護の観点からも、受け皿としての役割は大きい。今後も契約入所と併せて事業の活用と推進に期待したい。</p>
利用者満足度	<p>利用者の要望・苦情等については、可能な限り迅速な改善・対応を図る事で、利用者が安心して生活ができる環境作りを心掛けている。常に利用者目線でのサービス提供を行っており、多くの利用者より高い評価を得ている。</p> <p>常日頃から、職員／利用者間の信頼関係を築いていく中で、個々の利用者のニーズや声に耳を傾け、満足度の向上に努めていきたい。</p>	<p>調査結果からは利用者の高い満足度がうかがわれ、運営上の日々の工夫が反映されたものであると考えられる。</p> <p>今後も、日常的な関係作りやコミュニケーションを通し、満足度の向上と一人ひとりにあった適切なケアの両立に努めること。</p>

<p>運営目標の達成状況</p>	<p>コロナ禍の影響が、利用者の健康はもとより面会や各種行事の実施やボランティアの受け入れなど広範囲に及ぶ中で、利用者の生活環境を維持し生きがいの持てる健全で明るい老後を送れるよう、施設内での生活を中心として利用者支援に努めた。</p>
<p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p>	<p>長期化するコロナ禍において、感染症対策を講じつつ事業計画どおりに業務を実施できるよう努めている。利用者の安全・安心な生活はもとより、一人ひとりのニーズに寄り添ったケアがなされている。今後とも、利用者目線に立ったケアや介護に取り組んでいくとともに、利用者が達成感や充実感を得られるよう努められたい。</p> <p>経営状況については概ね適正に運営されていると考えられるが、経営の安定化という点からも、施設利用の一層の促進が期待される所であり、ショートステイ及び契約入所の自主事業について積極的な活用の方法を検討・模索する中で、その利用について市町村への積極的な働きかけ、各種関係団体への周知・広報活動に力を入れること。</p>
<p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p>	<p>今後とも盲老人が生きがいの持てる健全で明るい老後を送れるよう、きめ細かいケアに努めるとともにコロナ禍でもすると閉塞感を持ちやすい利用者の心身の維持向上に向け、職員の創意工夫で行事等の企画に鋭意努める。</p> <p>また、経営の安定に向けては自主事業の利用促進が図られるよう市町村や視覚障害者団体関係者等に対する働きかけを強めて参る。</p>

7 管理体制(組織図)

令和2年4月1日現在

